

2022年9月11日～9月17日 各家庭でのディボーション用テキスト

私はまた夢で見たが、羊飼たちは二人が旅人であることを見てとると、彼らも質問した（それに対して二人はほかの所と同じように答えた）。たとえば、どこから来たか、どうしてこの道に入ったか、どうやってこのように忍耐して来たかなど。それというの、こちらに来るようになった者のうち、この山の上に顔を見せる者はほとんどないからである。しかし羊飼たちは二人の答えを聞いた時満足し、非常に愛情をこめて二人を眺めて言った。ようこそ、愉快が岳にお出でになりました。

羊飼たちはその名を知識者、経験者、用心者、誠実者と言ったが、二人の手を取ってその天幕に連れて行き、あり合わせの物を彼らに振舞った。その上言うことには、私共と近づきになって、この山のよい物でもっとお心を慰められるよう、暫くここに滞在していただきたいのですが。二人は言った、喜んで滞在いたしましょう。そこで夜も大分ふけてきたので、その夜は寝についた。

それから私が夢で見ていると、朝になって羊飼たちは基督者と有望者と呼び起こしていっしょに山へ散歩に行くようにと言った。そこで二人は彼らと共に出かけ、四方の愉快的な景色を眺めながら暫く散歩した。その時羊飼たちは互いに言った。この巡礼者たちに不思議なものを見せてあげましょうか。こうして一同がそうしようと話が決まったとき、まず二人を一番端の所が非常に嶮阻になっている、誤りが丘という丘の頂上に連れて行って、谷底を見なさいと言った。そこで基督者と有望者とが見下ろすと、谷底には、頂上から落ちて粉みじんになった数名の者が見えた。そのとき基督者は言った、これはどういう意味ですか。羊飼たちは答えた。あなた方は肉体のよみがえりについて、ヒメナヨとピレトスの言うことを聞いたために身を誤った人々のことを聞いたことはありませんか。【Ⅱテモ 2:17-18】二人はありますと答えた。すると羊飼たちは言った、この山の谷底で粉みじんになって横たわっているのを見られたあの連中こそそれです。あまり高く登り過ぎたり、この山の崖に余り近づいたりしないように、見せしめとして、ご覧のとおり今日まで葬らずにあるのです。

それから私が見ていると、彼らは二人を、用心が岳というもう一つの山の頂上に連れて行って、遠方を見なさいと言った。そのとおりすると、数名の人がそこにある墓の間をあちこち歩いていると思うようなものを認めた。また彼らが、盲人であることが分かった。時々墓につまずいて、その間から外に出ることができなかつたからである。そこで基督者は言った。これはどういう意味ですか。

そのとき羊飼たちは答えた。この山の少し下に木戸があって、この道の左手にある牧草地に通じているのが見えませんでしたか。彼らは見えましたと答えた。すると羊飼たちは言った、あの木戸からまっすぐに小道が懷疑城に通じていて、そこは絶望者巨人が守るところです。この人々は（と墓の間にいる人々を指さして）あな

た方のようにかつては巡礼に出て、ちょうど例の木戸までやって来たのです。ところがそこでは正しい道がでこぼこしているので、そこから出てあの牧草地に入ろうとしたのですが、巨人絶望者に捕えられて懷疑城に投げ込まれました。暫くその土牢に入れた後、彼はついに彼らの目をくり抜いて、あの墓の間に連れて行き、今日に至るまでうろつくままにしてあるのです。「悟りの道を離れる人は死人の集会の中におる」という賢人の言葉が成就するためですね。【箴 21:16】このとき基督者と有望者とは涙あふれて、互いに顔を見合わせたが、羊飼たちには何も言わなかった。

それから私は夢で見ていると、羊飼たちはふもとにあるもう一つの場所に二人を連れて行った。丘の中腹に扉があったが、その扉を開け、中をご覧なさいと言った。それで中をのぞくと非常に暗く、煙でもうもうとしていた。そこに火の燃えるようなごうごうたる音と、だれか拷問にかけられている者の叫び声が聞こえ、硫黄の臭いをかいだように思った。そこで基督者は言った、これはいったいどういう意味ですか。羊飼たちは二人に言った、これは地獄への脇道で、偽善者がそこへ通って行く道です。すなわち、エサウのように長子の権を売る者【創 25:29-34】、ユダのようにその主人を売る者【マタ 26:14-16】、アレキサンデルのように福音を冒瀆する者【Ⅱテモ 4:14】、アナニヤと妻サツピラのように嘘をついて偽る者【使 5:1-11】などです。そこで有望者は羊飼たちに言った。あの連中は一人残らず私たちが今しているように巡礼の姿をしていたわけですね。

羊飼 そうです。しかも長いことそうしていたのです。

有望者 それにもかかわらず、こんなみじめにも捨てられるとは、当時巡礼の旅でどのあたりまで行ったのでしょうか。

羊飼 この山より先に行った者もあり、またそれほど行なかった者もあります。

それから巡礼者たちは互いに語り合った、私たちも強き主に力を呼び求める必要がありますね。

羊飼 そうです。そしてまた力を得たら、それを使ってみなくてはなりません。

この時にはもう巡礼者たちも先に進みたいと思っていたし、羊飼たちもまたそうさせたいと思っていた。そこで彼らはいっしょに山の端まで歩いて行った。それから羊飼たちはお互いに言った。ここで巡礼者が私たちの望遠鏡を上手にのぞくことができれば、天の都の門を見せてあげようではありませんか。巡礼者たちは喜んでその動議を受け入れたので、彼らは二人を明（あきら）が丘という高い丘の頂上に連れて行って、眼鏡を貸してのぞかせた。

そこで二人は見ようとしたが、羊飼たちから最後に見せられた物を思い出すと手がぶるぶる震えた。それが妨げとなって、しっかり眼鏡をのぞくことができなかったが、何か門らしいものと、その栄光が幾分見えたように思った。

【ジョン・バニヤン 天路歷程 正篇 より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい